

141

鳥類血液寄生原虫の調査とホホジロに見た
マイクロフィラリアに就て

登倉 登

(九州醫學専門學校細菌學教室*)

昭和13年6月30日から昭和17年2月20日に至る間、日本内地捕獲乃至飼育の鳥類血液寄生原虫の検査を行ひ、18種641羽の中、Proteosoma 13例、Haemoproteus 16例、Trypanosoma 4例を見た他、Micro-

鳥種	頭數	虫種			
		Proteosoma	Haemoproteus	Trypanosoma	Microfilaria
めじろ	100	0	1	0	0
すずめ	22	1	0	0	0
いかる	11	0	2	0	0
まひわ	10	0	0	0	0
みやまほほじろ	27	3	1	0	0
かしらだか	2	0	0	0	0
おほかはらひわ	31	0	0	0	0
かなりあ	307	0	0	2	0
うそ	12	0	0	0	0
ほほあか	10	2	0	0	0
こかはらひわ	30	0	0	0	0
しまごま	11	2	0	0	0
こまどり	1	0	0	0	0
おほるり	5	0	5	0	0
じふしまつ	12	0	0	2	0
うぐひす	1	0	0	0	0
のじこ	8	0	0	0	0
ほほじろ	41	5	7	0	2
累計18種	641	13	16	4	2

* Tokura Noboru: 現在臺北市幸町熱帯醫學研究所熱帯病學科研究室。

[醫學と生物學・第1巻・第10號・頁485-488・昭和17年5月20日]

filaria, 2例に遭遇した(表示).

1) *Proteosoma* LABBÉ は、*Plasmodroma* 亞門→*Sporozoa* 綱→*Telosporida* 亞綱→*Haemosporidia* 目→*Plasmodidae* 科の一屬で、*Præcox* GRASSI et FELETTI 1890, *Relictum* GRASSI et FELETTI 1891, *Vaughani* NOVY et McNEAL 1902, *Cathemerium* HARTMAN 1927, *Inconstans* HARTMAN 1927, *Rouci* SERGENT et CATANEI 1928, *Elongatum* HUFF 1939, *Circumflecum* KIRUTH 1931, *Nucleophilum* MANWELL 1935 等の種が挙げられてゐるが、異名同種も若干はあるらしい。小川教授¹⁾は、明治37年から明治42年に至る間、日本鳥類1478羽を検して42羽にこれを見られた(2.84%)。また有馬博士²⁾は、昭和6年から昭和8年に至る調査に於いて、59種817羽の鳥類から38例にこれを得た(4.65%)。熱帯地の鳥類の感染率は一般にこれより遙かに多いと思つてよい。予は、九州に於いて、スズメ=*Passer montanus saturatus* STEJENEGER 22羽に3例、ミヤマホホジロ=*Emberiza elegans elegans* TEMMINCK 27羽に3例、ホホアカ=*Emberiza fucata fucata* PALLAS 10羽に2例、ホホジロ=*Emberiza cioides ciopsis* BONAPARTE 41羽に5例、シマゴマ=*Larvivora sibilans* SWINHOE 11羽の2例にこれを見、カナリアに累代接種するを得た。即ち燕雀目=*Passeriformes* の鳥に限られ、雀科=*Fringillidae* と鶉科=*Turdidae* の範囲を出でないが、飼鳥カナリア並にジフシマツの319羽を除けば、野鳥322羽の13例に感染を見たわけだ(4.04%)。今、三株を保存し、マラリアの模型實驗に供してゐるが、種別同定に關しては後日の機會に報告するつもりだ。

2) *Haemoproteus* KRUSE は、*Halteridium* LABBÉ と謂はれたもので、*Proteosoma* LABBÉ と同一系列の住血原虫だが、*Proteosoma* より一層廣泛な寄生分布を示す。勿論、熱帯地の鳥類に於ては、寒帯地若しくは温帯地のそれより感染率が多いだらうといふことは疑ふべくもない。予は九州に於いて、メジロ=*Zosterops palpebrosa japonica* TEMMINCK et SCHLEGER 100羽に1例、イカル=*Eophona personata personata* TEMMINCK et SCHLEGER 11羽に2例、ミヤマホホジロ=*Emberiza elegans elegans* TEMMINCK 27羽に1例、オホルリ=*Cyanoptila cyanomelana* cya-

1) 緒方正規教授在職25年記念祝賀論文集。東京、明治43年。

2) 福岡醫科大學雜誌。28, 5, 811-858, 昭和10年。

nomelana (TEMMINCK) 5羽に5例, ホホジロ = *Emberiza cioides ciopsis* BONAPARTE 41羽に7例を見たに過ぎない。Columbae(鳩), *Tinniculi*(塔鷹), *Oryzivorae*(文鳥)等の種が擧げられてゐが、種別同定に關する詳細な研究はないらしい。寄生體の種名に宿主の名を採つて附することは、所謂特異的の宿寄關係 = Specific host parasite relationship の觀念に促へられ易いし、妥當を失する場合もあるだらうと考へられる。

3) *Trypanosoma* GRUBY は, *Plasmodroma* 亞門 → *Mastigophora* 綱 → *Protomonadina* 目 → *Trypanosomidae* 科の一屬で、諸種脊推動物に廣汎多岐な寄生分布を示すものだ。鳥類にも稀ならず見られる。マラリアの類推試験にはプロテオゾマと同様に重要な位置を占める。Noctuae, *Psittacidae*, *Loxiae*, *Hannai*等の種別が擧げられてゐる。しかし種族特異的 = Artpezifisch に一鳥種に一虫種と限つたわけでもないだらうし、異名同種もあるかも知れない。岡田博士³⁾の九州に於ける調査によれば22種193羽の鳥類の中、ベ = マシコ = *Urygus sibiricus sanguinolentus* (TEMMINCK et SCHLEGER) 15羽に1例、キウシウフクロフ = *Strix uralensis fuscenscens* TEMMINCK 4羽に1例、オホコノハヅク = *Otus bakka-moena semitorques* TEMMINCK et SCHLEGER 1羽に1例が認められたに過ぎない(1.55%)。蛙、鮒、泥鰌、野鼠等を捕食する鳥類には割に多いのではないかと竊に考へられる。予は野鳥322羽には1例も遭遇せず、カナリア = *Serinus canarius canarius* (LINNAEUS) 307羽に2例と、ジフシマツ = *Uroloncha striata domestica* FLOWER 12羽に2例だけこれを見た。

4) “*Microfilaria*” は、勿論原虫ではないが、偶然ホホジロ = *Emberiza cioides ciopsis* BONAPARTE 41羽の2例にこれを認めたので、不充分不精確な觀察ながら此處に附記する。予自身の覺書に過ぎない。*Nemathelminthes* 門 → *Nematoda* 綱 → *Eunematoda* 目 → *Filarioidea* 上科 → *Filariidae* 科の仔虫と信じて過誤はないと思はれたが、形態學的検査も完了しないうちに宿主が死亡し、感染試験を行ふ機會も失つたし、これに加へて成虫を検出することもできなかつたので、屬名並びに種名を決定することは許されない。體長80-90 μ 、體幅3-4 μ 、一端鈍圓で他端尖鋭な細長い圓筒狀の形體を有し、血球を排撃しつつ地面に掘上げられた蚯蚓のやうな活潑な運動を示した。囊鞘は認めなかつた。*Turnus* は顯著でなく、1乃

3) 福岡醫科大學雜誌. 26, 10, 1732-1792, 昭和8年。

至3時間直射日光に晒しても末梢血液の虫體は全然消失はしないが、1乃至3時間暗室に置けば著明に數を増した。

YORKE & MAPLESTONE⁴⁾ の分類に従へば、*Filariidae* 科の中、“Parasites of birds”として知られてゐるものには、*Filariinae* 亞科に於いて、*Hamatospiculum*, *Politospiculum*, *Hamulofilaria*, *Lemdana*, *Aprocta* (*Lissonema*), *Eufilaria*, *Coronofilaria*, *Chandlerella*, *Pelecitus* の諸屬がある、*Loainae* 亞科には、*Splendidofilaria* の一屬があり、*Setariinae* 亞科には *Serratospiculum* と *Contortospiculum* の二屬があり、*Diplotriaeinae* 亞科には *Diplotriaeana* の一屬があるが、その他所屬亞科未定の報告もある：*Monopetalonema*, *Tetracheilonema*, *Elaphocephalus* はこれに屬する。

即ち以上列擧したやうに、鳥類フィラリアは敢へて奇とするに足らないが、日本内地では案外頻繁に遭遇するものでもないらしい。

なほ表示ホホジロ41羽の中、プロテオゾマとヘモプロテウス2例、ヘモプロテウスとマイクロフィラリア1例、マイクロフィラリアとプロテオゾマ1例の重複感染を認めた。

(受附：昭和17年5月5日)

4) The Nematode Parasites of Vertebrates. London, 1926.